

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

汽車が柳が瀬を過ぎると、風景は俄然、陰鬱になった。西北に向かって流れる溪谷の水は石をかねで流れ、日暮の日本海が、紙の裏を見せたような灰白の水面を、うねらせ始めた。やがて私は突如、急激な異様なものを、車の屋根に聞いた。雨であった。雨はさめざめとした号泣のように、車をとりかこんで、ふった。

同行のドイツ文学者は、私をかえり見ていった。

「中国の詩人は、詩を求めて北の国に旅をしますか。」

「さあ、しないでしょね。杜甫の漂泊は、やむを得ずしてしたことです。またそれは北の国というわけでもない。」

①窓外の暮色は、いよいよ蕭条とじていた。私は問い返した。

「ヨーロッパではどうです。」

「やはりないでしょう。みなイタリーへは行きたがるけど。」

「スカンジナビアへは行きたがらないというのですね。」

「芭蕉の『奥の細道』は、何か日本人の人間虐待の精神と連なっていそうだね。」

私は数日前、ある会合で、日本人も家ごとに孝経を蔵する代わりに、家ごとに自動車をそなえ、電気冷蔵庫をそなえなければいけないと主張して、冷笑されたことを思い出した。

私は芭蕉の発句に対し、敬意を払う A やぶさかなものでない。もう一人の外国文学者の友人のように、芭蕉までなでざりにする積りはない。しかし過去の日本の詩人が、芭蕉にしろ西行にしろ、妻子をふりすてただひとり漂泊の旅に出たことは、妻子をひき具して堂々たる漂泊の旅をつづけた杜甫にひき比べて、いささか遺憾に思うところである。

「このひとすじ」の純粹を求めるのはよい。しかし純粹さは②豊富なもの、③複雑なものに背をむけることによつてのみ、成立するのであろうか。

問一 傍線部①「窓外の暮色は、いよいよ蕭条としていた」と、最も密接に対応しているものを、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア イタリアへ行きたがること。

イ スカンジナビアへは行きたくないこと。

ウ 『奥の細道』が、何か日本人の人間虐待の精神と連なっていること。

エ ある会合で冷笑されたこと。

オ 芭蕉の発句に対し、敬意を払う **A** やぶさかでないこと。

問二 **A** に入れるのに最も適当な助詞を、ひらがな一字で答えなさい。

問三 傍線部②「豊富なもの」と、③「複雑なもの」との、筆者のいうそれぞれの具体例を、文章中の語句から一つずつ選んで答えなさい。

問四 文章の構成が「起・承・転・結」になっていると考えた場合、「転」の部分はどこからどこまでか。その最初の五文字と、最後の五文字とを答えなさい（句読点を含む）。

問五 文章に最も適当と思われる題を、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 北の国    イ 新『奥の細道』    ウ 純粹さ    エ 杜甫と芭蕉  
オ 豊富なものと複雑なものに背を向けるな

二 次の傍線部のカタカナを漢字に漢字をひらがなに直しなさい。

- |             |               |            |
|-------------|---------------|------------|
| ① 中立をイジする   | ② マメツを防ぐ      | ③ 水草がハンモする |
| ④ 商品をチンレツする | ⑤ ごみをショウキヤクする | ⑥ コウミョウな手口 |
| ⑦ ドジョウを改良する | ⑧ 社会にホウシする    | ⑨ 競馬のキシユ   |
| ⑩ ヒサンな状況    | ⑪ シッピツを依頼する   | ⑫ メンエキができる |
| ⑬ 大統領に謁見する  | ⑭ 妄執を晴らす      | ⑮ 帳簿の披閱    |
| ⑯ 外敵を駟逐する   | ⑰ 左遷された       |            |